

令和7年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『もったいないを活かす地域に根付いた  
持続可能な価値づくり』

活動団体の活動地域：熊本県あさぎり町

活動団体名：(株)あさぎり商社

中間支援主体名：(公財)地方経済総合研究所

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	株式会社 あさぎり商社
活動地域	熊本県球磨郡あさぎり町
専門性・強み	
# 地域商社 # 地域に根ざしたネットワーク # 農産加工 # ふるさと納税 # 地域おこし協力隊との連携	

団体概要
農産加工（加工場）、商品開発・販売、ふるさと納税、事業者支援（特定地域づくり事業協同組合の運営） また、地域おこし協力隊が主体となり共創、人口対策やSDGsに関わる複数の事業を受託・展開を行っている。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域循環共生圏づくり事業</li><li>・ 脱炭素先行地域事業</li><li>・ デジタル田園都市構想事業</li></ul>

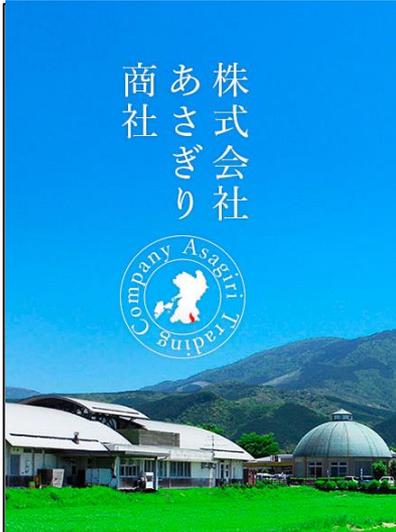
## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	公益財団法人 地方経済総合研究所
活動地域	熊本県全域
専門性・強み	
# 地域経済分析 # SDGs推進 # 国際販路開拓 # 地域活性化 # 外部専門家との連携 # フィールドワーク	

団体概要
<b>肥後銀行系シンクタンク</b> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ <b>ありたい姿（ビジョン）</b> 地域課題を解決し、豊かで持続可能な地域社会を実現するための情報・ソリューションを提供し続ける知恵袋</li><li>➤ <b>専門性</b> 調査研究活動 （経済調査、産業調査、生活者調査、受託調査、企業支援）</li></ul>

# 活動団体と地域の紹介

## 活動団体の紹介：株式会社あさぎり商社



町が100%出資する地域の総合商社

### ➤ ありたい姿

地域社会から信頼され、地域の人々と共に、地域産業の発展に取り組む

### ➤ 専門性

農産加工（加工場）、商品開発・販売、ふるさと納税、事業者支援  
（特定地域づくり事業協同組合の運営）

### ➤ 活動地域

熊本県球磨郡あさぎり町

## 活動地域の紹介：熊本県球磨郡あさぎり町



あさぎり町は熊本県球磨郡の南部にあり、隣県の宮崎県に近い人口14,000人ほどの小さな町です。山に囲まれ町の中央を日本三大急流の一つ「球磨川」が流れています。盆地特有の内陸的気候となっており、朝晩の寒暖差を活かし、甘みのある美味しい作物が栽培されています。秋から冬の朝には、町名の由来でもある「朝霧」の絶景に出会うことができます。

# 活動団体の目指す地域の姿

## ■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

### もったいないを価値に変える地域

あさぎり町の日常にひそむ「気づかれていないなんてもったいない」魅力を発掘し、地域資源として活用することで、持続可能な地域経済循環を実現する。住民のシビックプライドを育み、町への愛着を深めるとともに、訪れる人々にあさぎり町の魅力を伝え、ファンを増やすことで、「帰りたくなる町」を創り出す。

## ■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

- **地域内外の人材が交流できる拠点の整備**  
地域住民、移住者、学生、企業、行政などが共に学び合うコミュニティ形成を目指す。
- **人材確保と「稼ぐ仕組み」の創出**  
住民の町に対する誇りを再認識させ、主体的に関わるステークホルダーを確保する。また、地域資源を組み込んだビジネスモデルを構築する。
- **中間支援組織の設立・強化**  
現在中心となって活動している地域おこし協力隊の任期終了後も、持続的に活動を継続するための中間支援組織を設立する。

## ■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 事業のタネ①  
**「暮らす旅」隠れ里リトリートツアー**
- 事業のタネ②  
**地域材による資源循環**
- 事業のタネ③  
**住民が気軽に集まれる場づくり**

## ■ 地域の現状と課題

### ➤ 課題

- ①人口減少・少子高齢化の進行
- ②宿泊施設の不足
- ③学校統廃合による若者の流出

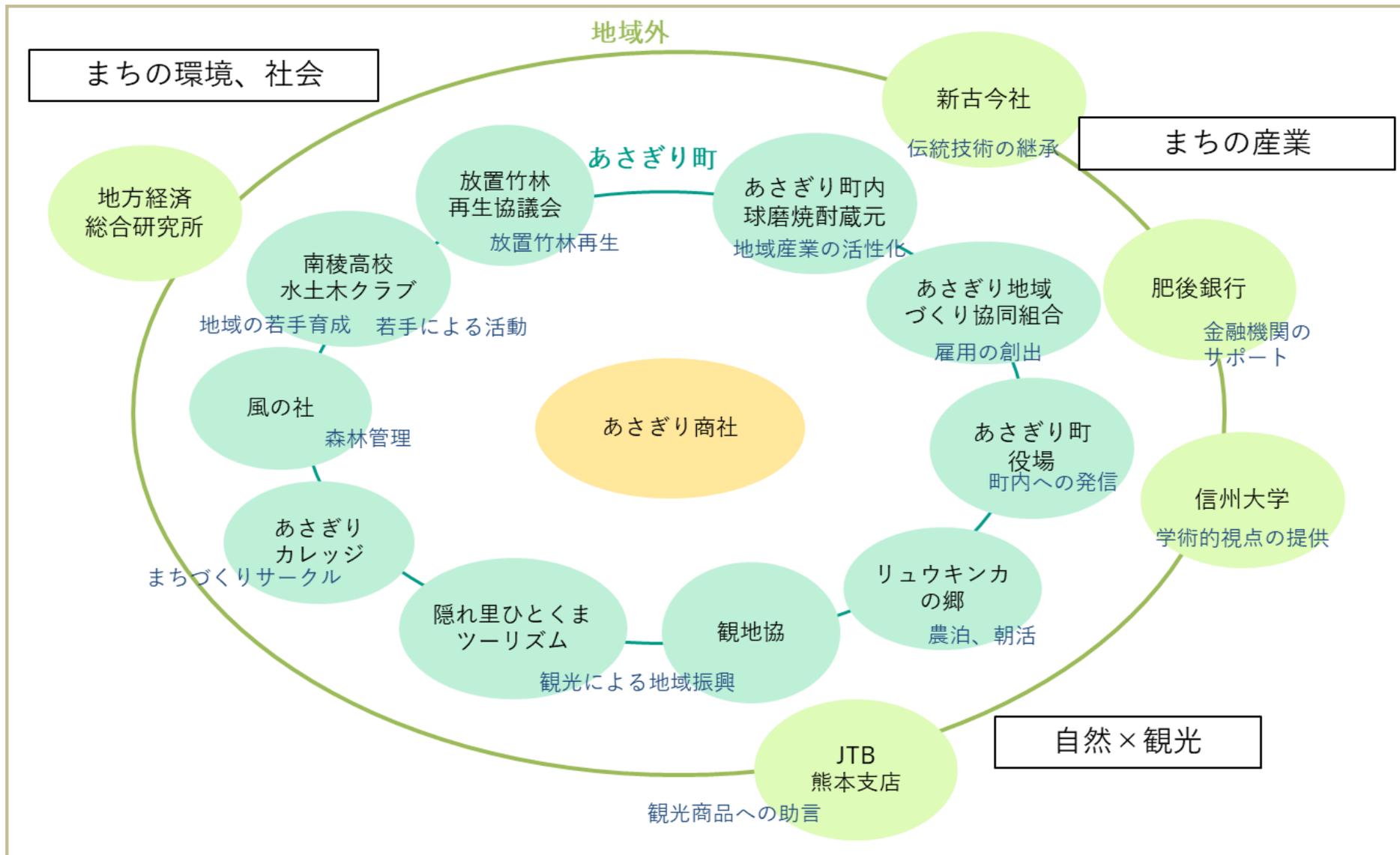
### ➤ 資源

- ①豊かな自然（朝霧、白髪岳、田園、球磨川）
- ②グリーンツーリズムの聖地
- ③あいさつが飛び交うまち





# “地域プラットフォーム”のイメージ



# ローカルSDGs 事業の詳細

## 「暮らす旅」隠れ里リトリートツアー

### あらすじ

熊本県の南部に位置するあさぎり町。豊かな自然に囲まれた人吉球磨地域は、作家・司馬遼太郎が著書「街道をゆく」で日本で最も豊かな隠れ里と記している。普段何気なく暮らしていると気づかない、その土地ならではの価値。あさぎり町には、そこに住む人々にとっては当たり前すぎて見過ごしてしまうような特別な魅力がたくさんある。そんなあさぎり町の日常にスポットライトを当て、ヨソモノ視点でその魅力を発掘し、地域事業者と協力して、また来たいと思ってもらえるような特別な体験を企画して関係人口を創出する。

### ストーリー

この地に暮らす人々にとっては何気ない日常にこそ、訪れる人々を魅了する特別な魅力が隠されている。「暮らす旅」隠れ里リトリートツアーでは、通常の観光では決して味わえない、地域に根ざした暮らしにスポットライトを当て、暮らすように旅をしながら地元の人々と交流してもらう。地域の文化や暮らしについて深く知ってもらい、あさぎり町のファンを増やし、地域活性化と地域住民のシビックプライドの醸成を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック	
① ありたい未来	あさぎりの日常に価値を感じ人が訪れるようになり、地域の人のシビックプライドを育む	経済的な持続性 地域の巻き込み 明確なターゲット設定 ツアーの販売方法 集客 コンテンツの磨き上げ ガイド不足	
② 課題	コンテンツの磨き上げ ツアー客の誘致 経済的な持続性 事業の実施主体		
③ なぜこの事業をやるのか (Why)	あさぎり町のファンづくり 関係人口の創出 地域の活性化		
④ 地域資源	あさぎり 山 球磨川 農泊 空き家 竹林 ヤギ牧場		
⑤ 商品・サービスの具体的な内容 (What)	あさぎりの暮らしを感じるリトリートツアー		
⑥ 担い手 (Who)	地域の人 地域おこし協力隊 農泊事業者		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	地域の活性化 域外からの資金 人の流れ		旅行業社 隠れ里ひとくまツーリズム 観地協 インフルエンサー ワークーション先進地域 全体的にディレクションできる人
⑧ 事業で生じる成果	関係人口創出 小商い創出		

# 3カ年状態目標

## ■ 2026年度末の状態目標

### 取り組めそうな事業を実際に始めてみる

前年度までの活動内容を踏まえて生み出した新たなビジネスを創出し、事業化を行う。  
形成した地域プラットフォーム活動を起点とし、検討した事業の地域での自走化を目指す。

## ■ 2025年度末の状態目標

### 事業のタネに取り組み事業内容を磨き上げていく

滞在型のあさぎり町体験ツアー（仮称）、森林の未利用材活用、自然共生と連携したワーケーション、場づくりなど、事業のタネごとに分科会を立ち上げ、事業内容を磨き上げていく。

## ■ 2024年度末の状態目標と振り返り

### 地域のもったいないを活かした地域経済循環をつくりだすための ステークホルダーを巻き込んだ状態の体制づくり

地域間、ステークホルダー間の連携を強化し、それぞれが主体的に協働する体制づくりを行った。また、同町に関係のある企業など、町外のプレイヤーも巻き込むことで様々な分野へ活動の幅を広げた。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての獲得目標

シンクタンクのネットワークと経済研究所としてのデータ分析を活用し、活動団体に適した連携先やデータを提供することで、地域づくり活動の促進を目指す。現場に入り込み、活動団体を横に立って支えられる組織として成長する。

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

### 1. 地域プラットフォームの維持と発展

本事業を通じて培われたネットワークとデータ分析の知見を活用し、地域団体や事業者に適した連携先を提供することで、地域経済の循環を促進する。持続可能な事業推進のために、地域内外の支援者を巻き込みながら、プラットフォームの運営を継続するための支援を行う。

### 2. 事業の推進

「もったいない」を生かした地域ならではの事業創出のため、自治体や地域内外のステークホルダーと協働し、事業を推進する。地域資源を活かした体験型プログラムなどのイベント開催やツアー商品等の造成に対して助言することにより、地域経済循環率の向上と、持続可能な地域づくりを支援する。

### 3. 地域住民の巻き込みと合意形成

地域で継続的に事業を発展させるために、事業終了後も地域事業者や住民との対話する場をつくる。活動のビジョンや方向性を共有することで、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する。

# 中間支援主体の支援・取組計画

## ■ 中間支援主体の1年間の支援目標

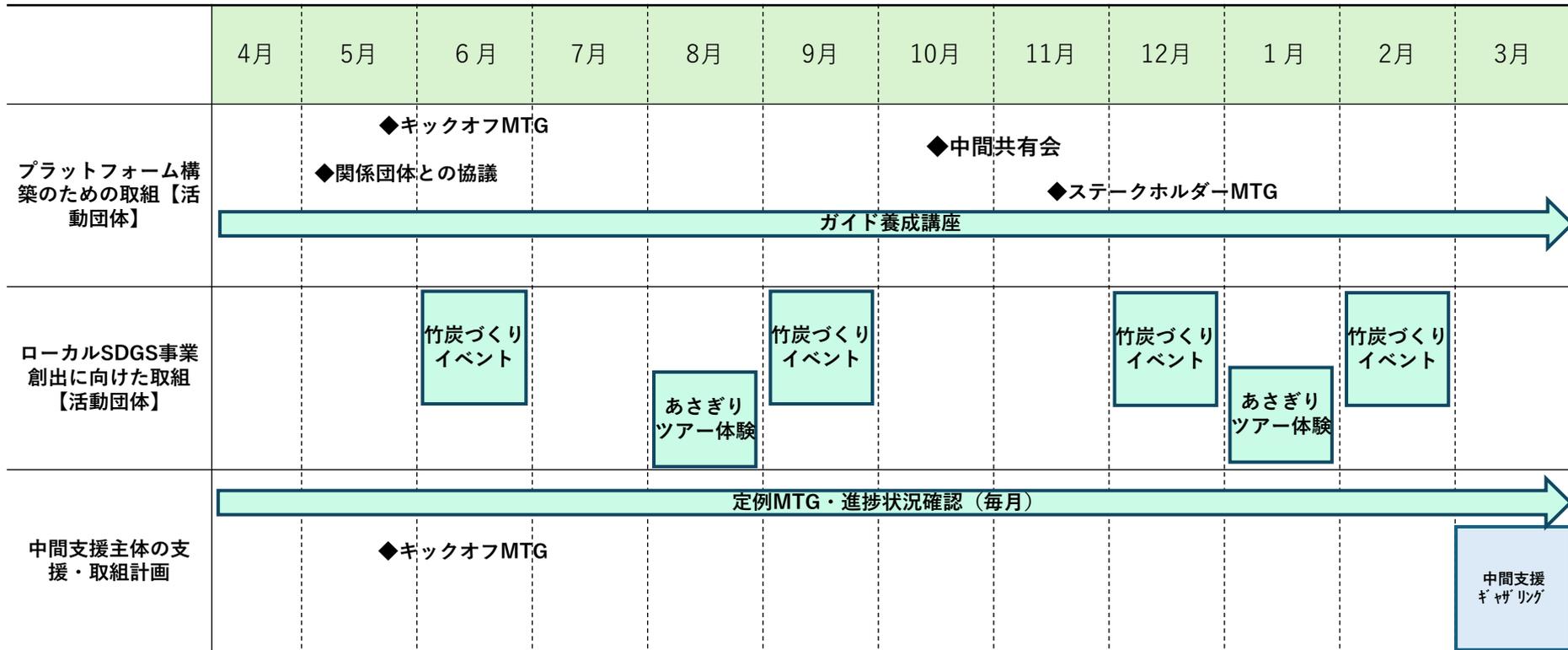
昨年度培ったノウハウを踏まえ、今後の事業の見通しをつけられるよう活動団体の実態に即した情報提供や、実際に事業に取り組む機会を創出する。

## ■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	現状では、ステークホルダー間の連携が十分に機能していない。今後は、各主体があさぎり商社と連携しながら主体的に事業化を進めるとともに、ステークホルダー間の協働による地域づくりの加速化が必要である。	あさぎり町に関する特定のテーマを設定し、コーヒーを片手に住民同士が気軽に語り合えるカジュアルな場を設ける。この場を通じて、地域課題や可能性について自由に意見を交換し、事業創出や意識の醸成につなげるとともに、行政・企業・住民など多様なステークホルダー間の協働を促進する。
②	地域で自走する事業に発展させられるように、地域住民や事業者との合意形成をとりながら巻き込み、あさぎり商社のファンを増やす必要がある。	地域住民を巻き込んだ活動の事例を共有することで活動のイメージを持ってもらい、あさぎり町ならではの事業の方向性を定めていく。
③	現在ある事業のタネを事業化する場合の事業スキームの検討が必要。	プラットフォームの現状を踏まえ、事業化に不足している要素を洗い出し、不足要素を補完するための動きをとる。また、プラットフォームの核となる組織の体制確立に対する助言を行う。

# 活動・支援スケジュール

## ■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）